

【今日の説教から】

先週は「主がその子ろばをお入り用なのです。ほどいて引いてきなさい」との御言葉を頂きました。主は私たちを必要とされ、私たちをお求めになられ、御子の贖いによって私たちを罪の縄目からほどいてくださいました。

今日もまた権威ある主は「弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます」との言葉を弟子たちに託すと、果たしてその通りに過ぎ越しの食事をする部屋に導かれました。

主は部屋を求めておられます。私たちは主がおとどまりになられる部屋を用意しているでしょうか。門前払いをしてはいないでしょうか。

「過越の小羊をほふるべき除酵祭の日」。過ぎ越しの子羊は屠られなければなりません。主はパンとぶどう酒を取って弟子たちと食事をなさいます。そして私の記念としなさいと言われました。主は「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう」（ヨハネ6章）と語られました。「わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である」と言われました。

主はまさしく過ぎ越しの子羊として、私たちから死を過ぎ来させるためのいけにえとなられ、私たちの命と、血肉となるために死なれました。主は自らを、私たちに命を与えるための糧として、飲み物としてご自分をお捧げになられました。このお方をいつも記念し、お伝えしたく願います。

皆様、おはようございます。昨日もまた朝は白い世界でした。昨晚から今朝にかけてもマイナス4度くらいの夜から朝でした。皆様お元気にお過ごしでしたでしょうか。

先週は「主がその子ろばをお入り用なのです。ほどいて引いてきなさい」との御言葉を頂きました。主は私たちを必要とされ、私たちをお求めになられ、御子の贖いによって私たちを罪の縄目からほどいてくださいました。

エルサレムのために、そのかたくなさのゆえにこれからどんな悲劇が待ち受けているのかわかり、涙を流されるイエス様。そして、『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたがたはそれを盗賊の巣にしてしまった」と、神の民を思って熱く語られ、宮清めをなさったイエス様。民は熱狂して歓迎しましたが、しかしそうなればなるほどに祭司長・律法学者たちの妬みと殺意は燃え上がりました。

今日の聖書箇所の前にはこうありました。

22:2 祭司長たちや律法学者たちは、どうかしてイエスを殺そうと計っていた。民衆を恐れていたからである。

22:3 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、サタンがはい

った。

22:4 すなわち、彼は祭司長たちや宮守がしらたちのところへ行って、どうしてイエスを彼らに渡そうかと、その方法について協議した。

22:5 彼らは喜んで、ユダに金を与える取決めをした。

22:6 ユダはそれを承諾した。そして、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、機会をねらっていた。

そしてこの7節の言葉があります。

22:7 さて、過越の小羊をほふるべき除酵祭の日がきたので、

過ぎ越しの子羊は屠られるべきなのです。過ぎ越しのお祭りに際して、鴨居に血を塗るために子羊が屠られ、屠殺されなければならなかったように、過ぎ越しの子羊イエス様が屠られるべき時が来ました。

ヨハネ 1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

22:7 さて、過越の小羊をほふるべき除酵祭の日がきたので、

22:8 イエスはペテロとヨハネとを差遣いに出して言われた、「行って、過越の食事ができるように準備をなさい」。

22:9 彼らは言った、「どこに準備をしたらよいのですか」。

22:10 イエスは言われた、「市内にはいったら、水がめを持っている男に出会うであろう。その人がはいる家までついて行って、

22:11 その家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』。

22:12 すると、その主人は席の整えられた二階の広間を見せてくれるから、そこに用意をなさい」。

22:13 弟子たちは出て行ってみると、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。

果たしてまた主のおっしゃる通りでした。主の山には備えがあります。主の権威の中で、主も、主の弟子たちも、何も欠けるところがありません。

前回の子ろばに続いて、次には二階の広間です。『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』と主が仰せになられると、またもその場が与えられました。

主は部屋を求めておられます。私たちは主がおとどまりになられる部屋を用意しているでしょうか。門前払いをしてはいないでしょうか。

家の一階には行き来があり、家畜がつながれていたり、往来と喧騒があります。しかしここでは奥まった、席の整えられた二階の広間、広々とした静かな二階の広間が用意されました。私たちは、その静かで広い、心の奥の間を主におささげしているでしょうか。喧噪のひどい中で主をぞんざいにお迎えして、表面上の愛想笑いを浮かべて、しばらくして良い頃合いになったら帰ってほしいと願っているのではないのでしょうか。

黙示録 3:15 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

3:16 このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。

3:17 あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。

3:18 そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。

3:19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。

3:20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

3:21 勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。

3:22 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

私たちは主に心の部屋を提供しているでしょうか。私たちの主である権威ある神様を、創り主なる神様を、私たちはどのようにお迎えしてどのような座にご案内するのでしょうか。

22:14 時間になったので、イエスは食卓につかれ、使徒たちも共に席についた。

22:15 イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。

22:16 あなたがたに言うが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、

この過越の食事をすることはない」。

イエス様はこの時を、切に待っておられました。過ぎ越しの食事を弟子たちと共にすることを。そしてパンとぶどう酒をとって弟子たちと分かち合い、ご自身の記念とすることを。それはご自身がまことのパンでありぶどう酒であることを弟子たちが忘れないために、そうすることを主は苦しみを受ける前、そうすることを切に待っておられました。

ヨハネ 6:51 わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である」。

6:53 イエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。

6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。

6:55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。

6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。

6:57 生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。

6:58 天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう」。

主は私たちのための贖いの犠牲となることを喜ばれました。自らの肉を十字架にかけ、自らの血潮を注ぎだしていけにえとなり、きよめとなることを、主は喜んでおられました。そして、その愛の事実を、その救いの確かさを弟子たちが忘れないようにと、主はこの生産を制定されました。

22:16 あなたがたに言うて置くが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をすることはない」。

22:17 そして杯を取り、感謝して言われた、「これを取って、互に分けて飲め。

22:18 あなたがたに言うておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない」。

22:19 またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさ

い」。

22:20 食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。

神の国が到来し、天で弟子たちと共に食し、共に飲むときまでは私は二度とこの過ぎ越しの食事をしない。そしてあなた方とまみえるその時、共に喜びの食事をしよう、逆に再び私と会うときまではあなた方はこのことを続けなさいと主は語られました。

主のそのお体と血潮をささげ、過ぎ越しのための、罪の贖いのためのいけにえとなられました。私たちはその贖い主、父なる神様から遣わされた贖いの子羊であられる主の記念をするのです。

22:21 しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。

22:22 人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである」。

22:23 弟子たちは、自分たちのうちだれが、そんな事をしようとしているのだろうと、互に論じはじめた。

誰がそんな裏切りをと互いに顔を見合わせる弟子たち。犯人探しをする弟子たちの姿があります。自分はそのことをしていない、誰が不届きものかと人の非を見出そうとする弟子たちは、互いに天狗になっていて、自分を人よりもすぐれたものとして誇示したいようにふるまっていました。そのことが次の24節にはっきりと描かれています。

22:24 それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起った。

本当に皆不義の者、主の御心をわきまえられない未熟な者です。この弟子たちのために、主は手ぬぐいをとって足の裏を洗ってくださいました。そして仕えあうことを、赦しあい、互いにきよくなり、徳を高めるべきことを教えてくださいました。

キリストに生きたいと願います。主は何を心待ちに願っておられたか。それはご自身が御名のための捨て石となり、贖い代となり、肉を割き血を流して弟子たちの血肉、命となり、その温かい食卓と、ご自身の愛の記念を弟子たちの心に刻むことでした。

後になって弟子たちはイエス様のこの気持ちを忘れまいと讃美歌の歌詞のようにこの言葉を刻み、節まで付けて歌い続けたと聞きます。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

イエス様を愛し、イエス様を記念し、いつも心に覚え、その生きざまにそのお言葉に預からせていただきたいと、私たちが切に望むのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。イエス様が私たちの心の中にいつもお住みくださり、私たちのうちにいつも主が住んでいてくださることを私たちが忘れないために、イエス様は過ぎ越しの食事を、聖餐式を切に願われました。あなたのご誠実さとご愛に、心より御礼を申し上げます。そのイエス様のために、私の心の広間を開きますから、どうぞお入りになってください。いつもともにおられ、語り励まし、導き守ってくださり、ありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。

アーメン